

福島で「住民の健康に影響なし」 UNSCEARが報告書を承認

国連の原子放射線影響に関する科学委員会(UNSCEAR)は年次会合最終日の五月三十一日、「福島事故による被ばくが住民の健康に直ちに影響を与えることはなく、一般市民や作業員の大多数が将来、何らかの健康影響を被ることも考えにくい」と結論づける報告書を承認した。今年後半に開かれる国連総会に提出される予定だが、国際放射線防護委員会(ICRP)勧告に技術的なベースを提供する立場のUNSCEARが、純粋に科学的所見から事故による健康影響の小ささを保証したことから、日本の今後の放射線規制にも何らかの影響があると予想されている。

福島事故後の住民と環境に対する放射線影響の問題は二十七日に開幕していたUNSCEAR会合の主要議題の一つ。今回の報告書案は国際的に著名な科学者八十余名が同事故から得られた情報を分析してまとめたもので、総会ではUNSCEARの加盟二十七か国の代表がこれを精査した。委員会としての勧告を盛り込んだ上で正式に公表されたら、これまでに同事故から得られたデータの国際的な科学分析では最も包括的な報告書になるとしている。

バラカ2号機でコンクリート打設

アラブ首長国連邦(UAE)の首長国原子力会社(ENEC)は五月二十八日、バラカ原子力発電所2号機(韓国製PWR、百四十万kW)の建設工事で原子炉建屋の最初のコンクリート打設を実施した。昨年七月に正式着工した1号機に続いて、本格的な作業が開始した。二〇一八年の営業運転開始を目標としている。



建設サイトはUAE西部のペルシャ湾岸に位置する

同日、アラブ首長国連邦の建設サイトで開催された着工式には、工事を受注した韓国の尹相直(ユン・サンジク)通商産業資源相も出席。当初計画から数か月前倒して正式着工にこぎ着けたことを祝福すると共に、炎天下での現地作業員の労をねぎらった。

ビスギナス計画の継続に条件

リスニア首相は五月二十八日、エストニアのT・イルベス大統領とバルト三国の最重要課題であるビスギナス原発建設計画など、地域共同プロジェクトについて協議した。

ENECは今後、一五年を目処に1、2号機の運転認可を連邦原子力規制庁(FANR)に申請する計画。これらに続く3、4号機についても既に今年三月、建設許可申請を提出済みとなっている。



UNSCEARの年次会合

「全体的に見て、日本国民が受けた被ばく線量は低いから、あるいは非常に低く、以後も健康影響のリスクは相応に低い」と言っている。事故直後の避難指示など、住民を守るために取られた措置が線量を十分の一まで下げたのに大いに役だったとしており、その後数十年間にかんがん発症率の上昇といった健康影響が表れる可能性があったと指摘した。

検査結果偽造でケーブル交換

韓国 夏場の供給力に懸念 韓国原子力安全委員会は五月二十八日、新古里原子力発電所1、2号機と新月城原子力発電所1号機、および完成間近の同2号機(すべてPWR、百万kW)に、安全性評価結果の偽造された制御ケーブル有すると明記された。

「孤立せずに独立性を」 規制体制で海外専門家が助言 日本では新たな規制基準の策定作業が続けられているが、四月に開催された原産年次大会では安全性向上に関するセツシヨンに内外の専門家が登壇。このうちセツシヨン後に国内メディアの会見に際し、国際的な見解を示した。

報告書によると、福島ではヨウ素131による被ばくは事故後数週間以内に限定され、甲状腺の吸収線量が数十mGレイト程度だった一方、セシウム134と137による全身線量は十mSvほど。福島からの放射線放出により大部分の日本人が最初の一年間とそれ以降に受ける追加の被ばく量は自然放射線レベルである年間二・一mSvより低いとしている。

「孤立せずに独立性を」 規制体制で海外専門家が助言 日本では新たな規制基準の策定作業が続けられているが、四月に開催された原産年次大会では安全性向上に関するセツシヨンに内外の専門家が登壇。このうちセツシヨン後に国内メディアの会見に際し、国際的な見解を示した。

このほか、運転開始を控えて機器の動作審査段階にあった新月城2号機については、運転許可取得前に交換を行う。新古里3、4号機の場合は、今後の調査の後に安全性評価を実施し、結果に応じて適切な措置を取る計画だとされている。

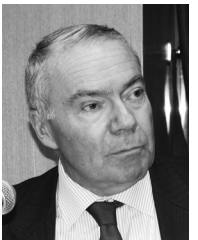
「孤立せずに独立性を」

規制体制で海外専門家が助言 日本では新たな規制基準の策定作業が続けられているが、四月に開催された原産年次大会では安全性向上に関するセツシヨンに内外の専門家が登壇。このうちセツシヨン後に国内メディアの会見に際し、国際的な見解を示した。

「孤立せずに独立性を」 規制体制で海外専門家が助言 日本では新たな規制基準の策定作業が続けられているが、四月に開催された原産年次大会では安全性向上に関するセツシヨンに内外の専門家が登壇。このうちセツシヨン後に国内メディアの会見に際し、国際的な見解を示した。



多くの報告書が福一



新しい基準が厳しすぎる

「孤立せずに独立性を」 規制体制で海外専門家が助言 日本では新たな規制基準の策定作業が続けられているが、四月に開催された原産年次大会では安全性向上に関するセツシヨンに内外の専門家が登壇。このうちセツシヨン後に国内メディアの会見に際し、国際的な見解を示した。